



2022年2月2日

各 位

上場会社名 マルハニチロ株式会社
代 表 者 代表取締役社長 池見 賢
(コード番号 1333 東証第一部)
問合せ先責任者 経営企画部
I R グループ 部長役 目時 弘幸
(TEL. 03-6833-1195)

スケソウダラ操業のための資産譲受けに関するお知らせ

当社は、当社の連結子会社である Maruha Capital Investment Inc. (以下「MCII 社」と Westward Seafoods Inc. (以下「WSI 社」) が Icicle Seafoods Inc. (以下「Icicle 社」) からスケソウダラ操業のための資産を譲り受けましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本件は、東京証券取引所における適時開示基準に該当しないため、開示事項・内容を一部省略して開示しております。

1. 譲受けの内容

WSI 社が Icicle 社から加工施設を譲り受けるとともに、MCII 社と現地パートナーとが新設する漁船保有会社が Icicle 社から助宗漁獲枠付き漁船9隻を譲り受けました。

なお、譲受金額は、Icicle 社との守秘義務契約により非開示といたします。

2. 経緯・理由

ベーリング海のスケソウダラ事業は、米国漁業法により漁船が漁獲枠を保有する形態となっており、その漁獲枠も陸上枠、母船枠、工船枠の3つに分けられています(参考資料シート6参照)。このうち、WSI 社のように陸上加工工場を保有している会社は、陸上枠をもつ漁船からの水揚げが必要となります。

本件譲受けにより、陸上枠へのアクセスシェアは31%から41%まで増加し、陸上事業としてはシェアトップとなります(参考資料シート6参照)。

漁獲枠については、米国漁業法の外資規制により、MCII 社から漁船保有会社への出資は25%を超えることはできませんが、75%出資の現地パートナーとともに漁船保有会社を新設して、その会社が漁獲枠付き漁船を譲り受け、MCII 社グループ工場に水揚げすることによって、より多くの漁獲枠を利用できるようになります。

漁獲枠のように天然水産資源に関与できる権益は、世界的に限られたもので、新たな取得には相当な困難が伴います。今回のアクセスシェアの追加は、ベーリング海という世界三大漁場のひとつの海域で、スケソウダラという潤沢な資源量を持ち、かつサステナブルな魚種にアクセスすること、そして、その機会の希少性を考慮すれば、同等以上の権益の取得は当面非現実的である



うと認識しております（参考資料シート7参照）。需要面では、人口増加、健康志向、環境配慮等から世界的に需要は堅調で、フィレやすりみ等、様々な形態で、その需要に応えることが可能となります（参考資料シート4,5参照）。

また、譲り受ける加工施設はMCII社傘下の既存2工場と近接しており、その運営には大きな追加コストは伴いません。スケソウダラ以外の魚種の加工も含め、合計3工場の生産機能の適正配置を行い、生産効率のさらなる向上に努めてまいります。

なお、現地パートナーは、Community Development Quota（地域開発枠、以下「CDQ」）ⁱに属する組織であり、本件譲受けのスキームは、当該CDQの組織と協力して漁業資源にアクセスするものであります。今回得られる漁獲枠はCDQではない一般枠ですが、その漁獲物から得られる価値は、当該現地パートナーを通じて地元コミュニティへも残されることとなります。

当社グループは、2020年11月2日に公表いたしました「子会社における事業譲渡に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、同年12月に、数年にわたって不採算が続いていた北米の鮭鱒加工事業から撤退いたしました。今般のスケソウダラ事業の資産取得により、北米の水産加工事業のアセットの入れ替えが完了し、今後は、スケソウダラを当社グループの北米事業の主体と位置づけ、経営資源を集約してまいります。

世界的な人口増加が今後も継続する中、発展途上国等での食文化の向上も加わり、タンパク質の需要は人口増加以上に伸びると予測されています。

水産物の需要も同様に、長期的に大きく拡大することが見込まれますが、その中でも、スケソウダラは、天然魚としてはペルーアンチョビーに次ぐ漁獲量（2019年）があり、ベーリング海を共有する米国とロシアが、世界の供給をほぼ二分しています（参考資料シート2,3参照）。アラスカのスケソウダラ漁業は、持続的な管理漁業として長らく実績を積み重ねており、現在、世界で最も規模の大きな「サステナブル認証」漁業です（参考資料シート8,9,10参照）。他の水産資源より比較的安価で大量に市場へ供給することができる持続供給可能なタンパク源として、人類にとって益々重要になると予測されます。

3. 相手先の概要

(1)	名 称	Icicle Seafoods Inc.	
(2)	所 在 地	アメリカ合衆国ワシントン州シアトル	
(3)	代表者の役職・氏名	社長 Glenn Cooke	
(4)	事 業 内 容	水産物加工販売	
(5)	設 立	1965年1月	
(6)	大株主及び持株比率	Cooke Seafood USA Inc. 100%	
(7)	上 場 会 社 と 当 該 会 社 の 関 係	資 本 関 係	該当事項はありません
		人 的 関 係	該当事項はありません
		取 引 関 係	該当事項はありません
		関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません



4. スケジュール

2021年12月20日 取締役会決議日

2022年1月中 漁権他名義変更確認後、決済を完了し、クロージング

2022年1月20日 スケソウダラ漁Aシーズンⁱⁱ開始

5. 業績に与える影響

2022年3月期の連結業績に与える影響は軽微であります。来期以降につきましては、当社の連結業績に寄与する見込みであり、適切に業績予想へ反映させた上で開示いたします。

以上

ⁱ Community Development Quota: コミュニティ開発割当 (CDQ) プログラムは、以下の目的のために設立されました。(i) 適格なアラスカ西部の村に、ベーリング海とアリューシャン列島管理地域の漁業に参加して投資する機会を提供すること (ii) アラスカ西部の経済発展を支援すること (iii) 貧困を緩和し、アラスカ西部の住民に経済的および社会的利益を提供すること (iv) アラスカ西部で持続可能で多様な地域経済を実現すること。

ⁱⁱ Aシーズン: ベーリング海助宗漁業は、卵の生産を含む1月～5月までの漁期をAシーズン、6月～10月までをBシーズンとし、資源管理を行っている。

別添：参考資料

マルハニチロ株式会社

2022年1月



Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

1

1. スケソウダラの供給

天然魚の漁獲量のうち、スケソウダラは、ペルーアンチョビーに次ぐ第2位の漁獲量

魚種	漁獲量 (千トン)
ペルーアンチョビー	4,249
スケソウダラ	3,496
カツオ	3,442
キハダ	1,579
大西洋ニシン	1,559

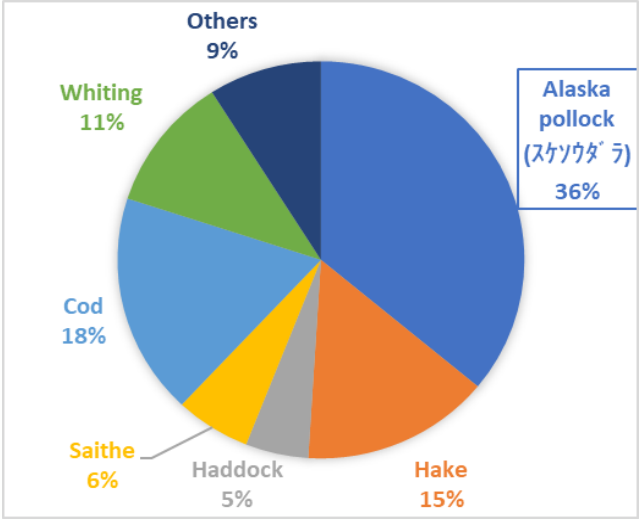
出典：FAO Fishstat

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

2

2. スケソウダラの供給

スケソウダラは天然底魚類の36%を占めており、その主要生産国は、ロシアと米国・カナダ



スケソウダラの主要生産国

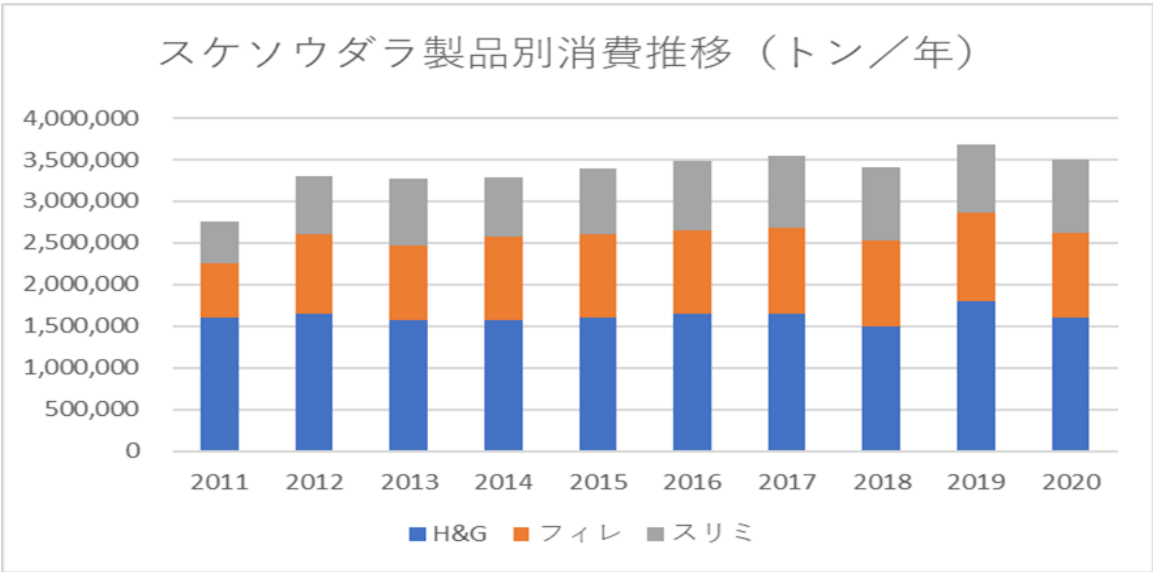
国名	数量 (千トン)
ロシア	1,884
米国・カナダ	1,507
その他	234
合計	3,625

出典:FAOのデータをもとに作成

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

3. スケソウダラの需要

スケソウダラのフィレ(H&Gを含む)の需要は北米・欧州を中心に拡大するとともに、スリミの需要も堅調に推移

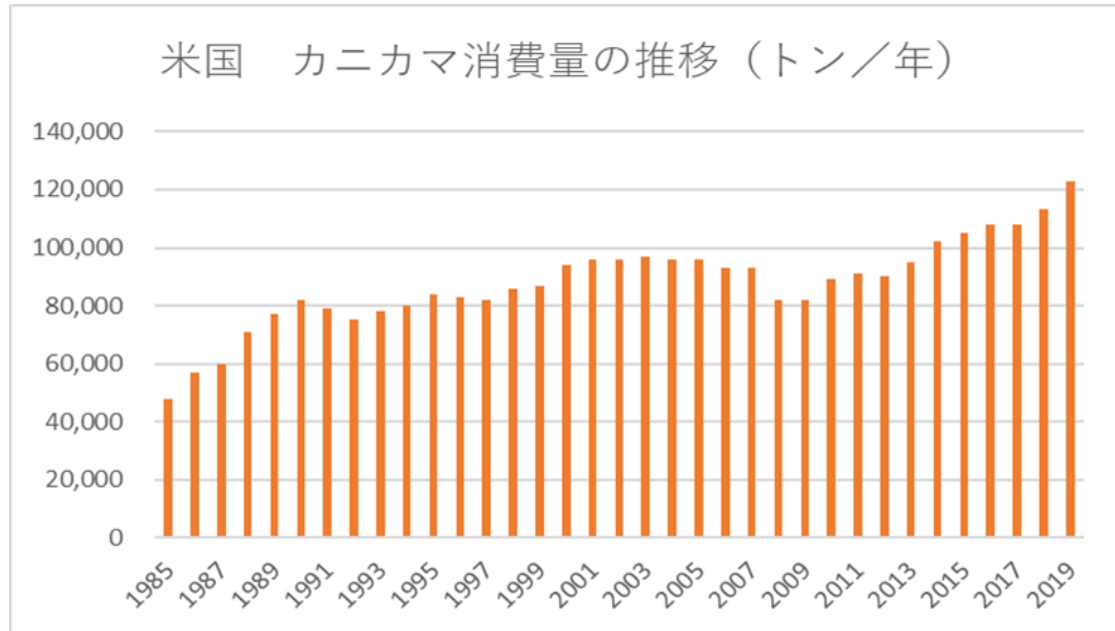


H&G: 頭および内臓を取り除いた製品。H&Gは最終的にフィレに加工 当社推計

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

4. スケソウダラの需要

米国におけるカニカマ(スケソウダラのスリミが原料)の需要は堅調な拡大傾向を示している



当社推計

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

5

5. スケソウダラの漁獲枠の状況

陸上枠の漁獲枠が31%から41%に増加することにより、一般枠の総シェアは22%から27%に増加

2022年ベーリング海スケソウダラ漁獲枠(全体の数量)

スケソウダラ枠全体		111万トン	各漁獲枠の説明	
一般枠全体		95万トン	一般枠：民間企業がアクセスできる漁獲枠	
一般枠内訳	陸上枠	48万トン	陸上枠：陸上加工工場向けの漁獲枠	
	母船枠	10万トン	母船枠：加工母船向けの漁獲枠	
	工船枠	38万トン	工船枠：トロール工船向けの漁獲枠	

ベーリング海スケソウダラ漁獲枠(マルハニチロのシェア)

		2021年	→	2022年
一般枠全体		22%	→	27%
一般枠内訳	陸上枠	31%	→	41%
	母船枠	66%	→	66%
	工船枠	0%	→	0%

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

6

6. スケソウダラの漁獲枠取得機会の希少性

米国ベーリング海のスケソウダラの天然漁業資源

科学的に厳しく管理されており、サステナブルに優れている

グローバルな視点では、サステナブルな漁業資源の新規取得は困難な状況の中、今回の漁獲枠取得が実現

米国のスケソウダラ資源は、陸上枠が事実上取得可能な唯一の漁獲枠であるが、その所有者も今回譲渡を受けるIcicleを除けば当社を含めてほぼ3グループであり、所有者が極めて限られているため、新規取得は事実上最後の機会

今回の漁獲枠取得は、地域漁業者であるCDQとの共同での取り組みであり、地域経済の発展に貢献

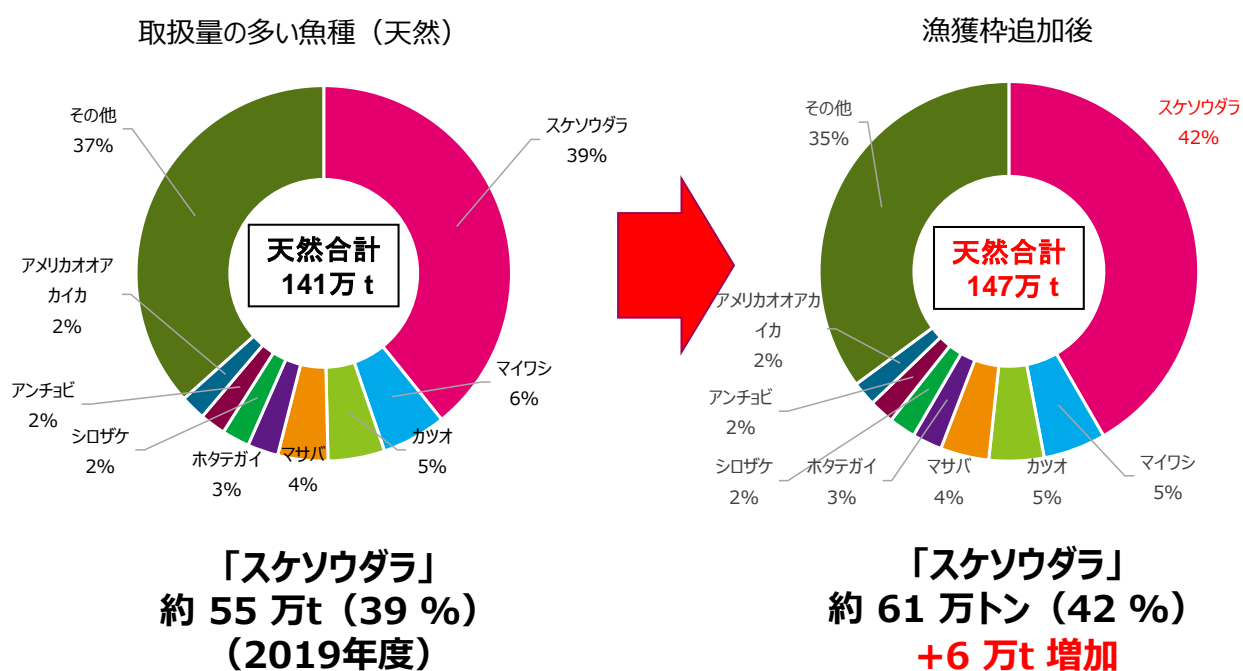
Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

CDQ: Community Development Quota

7

7. サステナビリティ（取扱天然水産物への影響）

スケソウダラの漁獲枠が6万トン追加となった場合のマルハニチログループ取扱天然水産物の内訳想定



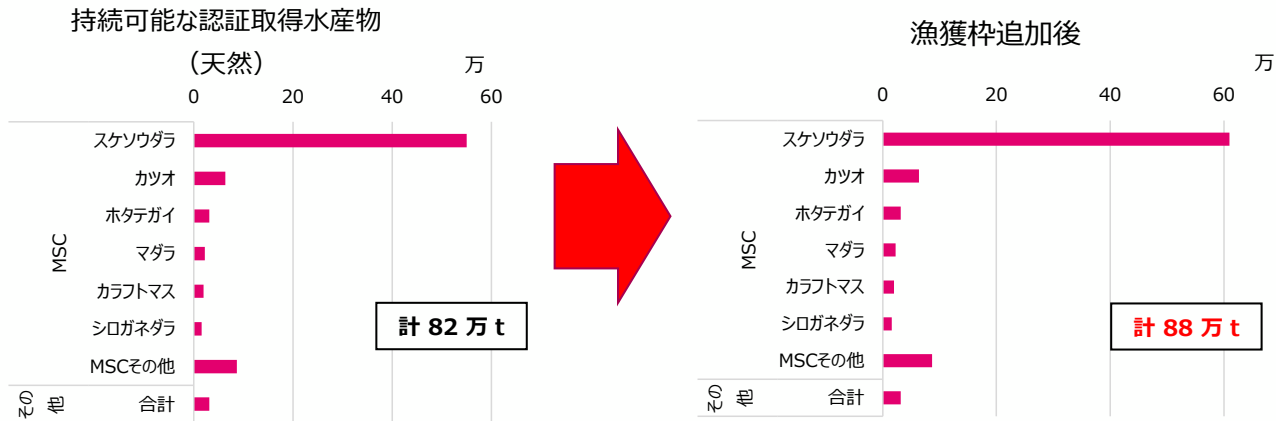
Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

漁獲枠(全体)130万トンが前提

8

8. サステナビリティ（認証取得天然水産物への影響）

スケソウダラの漁獲枠が6万トン追加となった場合の認証取得天然水産物の内訳想定



スケソウダラ(MSC漁業認証取得)
約 55 万t
(2019年度)

スケソウダラ(MSC漁業認証取得)
約 61 万トン
+6 万t 増加

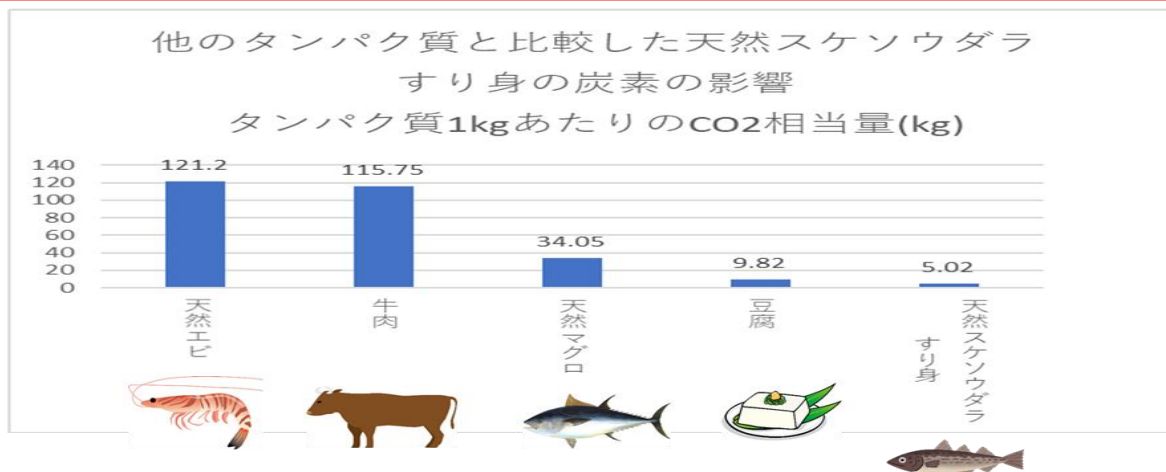
漁獲枠(全体)130万トンが前提

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

9

9. サステナビリティ（温室効果ガスへの影響）

アメリカスケソウダラ生産者協会(GAPP)が、天然スケソウダラを原料とする水産練り製品は他のタンパク質と比較して、気候に配慮したタンパク源であることを報告



出典：アラスカスケトウダラ生産者協会のデータをもとに作成

- ・天然スケソウダラを原料とする水産練り製品は、気候に配慮したタンパク源としてライフサイクルアセスメント(LCA) 認証を受けている。
- ・気候に配慮しているだけでなく、栄養価が高く、生物的資源量が豊富で適切に管理されているため持続的に漁獲可能である。

Copyright ©2022 Maruha Nichiro Corporation

10

